

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

高校でソフトテニス部に所属しています。先日の秋の大会で起きたことです。

マッチ中プレーヤーが被っていた帽子が、風で飛ばされ空中に舞っている間に相手の打球が当たってしまいました。これはどうなるのでしょうか。

Answer

舞い上がった帽子はプレーヤーが身に着けていたものとみなされ「ボディタッチ」が適用される

この大会ではどのような判定をされたのでしょうか。判定はくだされているはずですが、判定が書いてないのは残念です。ところで、質問に直接該当する条文は見つかりませんが、競技規則の第35条第4号に打ったボールがプレーヤーの身体又は着衣に触れた場合「ボディタッチ」とあります。さらに第10号には、ラケット、帽子又はタオル等がプレーヤーから離れて直接ネット若しくはネットポストに触れた場合(ネットタッチ)。ラケットが一旦コートに落ちてから触れた場合も含む。とあります。これらのことから、着衣の一部が身体から離れて「空中にある状態」はまだプレーヤーの身体の一部であると考えるのが妥当です。従って今回の事例では舞い上がった帽子は、まだプレーヤーが身に着けていたものとみなされ、「ボディタッチ」が適用されることになり、「ボディタッチ」と判定するのが妥当だと思います。なお、第11号には、プレーヤーがコート又はアウトコートに落ちていた帽子、タオル等

(ボールは含まない)を、手、足、ラケットで押しやったものが直接ネット若しくはネットポストに触れた場合(ネットタッチ)及びそのマッチのアンパイヤーまたは審判台に触れた場合(タッチ)とあり、ラリー中のボールが手、足、ラケットで押しやった帽子等が空中にある間に触れると「ボディタッチ」と見なされる事になりますね。そこで、帽子はしっかり被っておくようにしましょう。このように考えてみると、普段あり得ないと思われるような出来事が何時起きるかわかりません。大会のレフェリーになられる方は、ハンドブックの内容を十分理解され判定をくだされるようにお願いします。



【関連規則】

競技規則第35条 (インプレーにおける失ポイント)

- (4) 打ったボールがプレーヤーの身体又は着衣に触れた場合(ボディタッチ)。
- (10) ラケット、帽子又はタオル等が、プレーヤーから離れて直接ネット若しくはネットポストに離れた場合(ネットタッチ)。ラケットが一旦コートに落ちてから触れた場合も含む。
- (11) プレーヤーがコート又はアウトコートに落ちていた帽子、タオル等(ボールは含まない)を、手、足、ラケットで押しやったものが直接ネット若しくはネットポストに触れた場合(ネットタッチ)及びそのマッチのアンパイヤー又は審判台に触れた場合(タッチ)。